

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るっている中、皆さんの安全を第一に考え、入学式を、このような形で執り行なうことにいたしました。本日からわれわれの同志となられる、新しい学部学生及び大学院学生の諸君、そしてこの日を長年にわたり心待ちにしておられましたご家族の皆様と共に、輝かしい希望に満ちたこの喜びを分かち合いたく存じます。本日はご入学、誠におめでとうございます。皆様の栄えある門出にあたり、私から一言お祝いを申し上げます。

今、世界で起こっている現象は、ただ事ではなく、本国でも国難と言えます。われわれ全員が、このウイルスを正しく恐れ、高い意識を持って冷静に立ち向かい、この戦いを早期に終息させることが急務といえます。今、我々が最大限の努力をしなければならぬのは、感染を受けないことです。そのことが徹底できれば、感染を拡げることには防げます。これは自分を護るためという事を超えて、社会を護るためです。このウイルスはしたたかで、知らないうちに感染を受け、知らないうちに人に移してしまうということが起こってしまっています。

では、何をすればいいのか。それは我慢です。今、それを徹底すれば、数週間で元の平穏な社会に戻るでしょう。今、我慢を怠れば、歯止めがきかなくなり、大きな犠牲を伴って、元に戻るのに何年もかかるでしょう。諸君は、大学生として、自覚を持って責任ある行動に努めてください。感染を受けない拡げないためのノウハウは、本学のホームページならびにユニパで詳しく発信していますのでぜひ見てください。

ただ、この自粛の期間を無駄に過ごして欲しくはありません。人が密集しないアウトドアで、散策やスポーツを楽しむのは安全です。この機会に、自分の殻から飛び出し、さまざまなジャンルの本を読みあさってみるのもいいでしょう。考え方を換えれば、ある意味、自由な時間がこんなに与えられる機会は滅多にありません。このピンチをチャンスに生かす方法を、皆さん一人一人考えて有意義に過ごしてください。

ちなみに、私がイチダイに入学した1969年は、学園紛争真っ只中で入学式は中止、授業もしばらくありませんでした。私は自転車で一人旅に出ました。そこでいろいろな人と出会い、自分自身を見つめ直すことができました。その経験は、今、私の人生観の根源になっています。

さて、本学は 2 年後に大阪府立大学と一緒に、新たな大学になりますが、諸君は、卒業まで大阪市立大学でイチダイ生として学んでいただくことになります。本学は、今年 140 周年を迎える歴史と伝統ある、本邦で最初のイチリツ大学です。

そのルーツは、1880 年に五代友厚公らによって、商人にも学問が必要との理念で設立された大阪商業講習所に遡ります。五代友厚公は明治維新の立役者の一人で、薩摩藩士、サムライでした。彼の理念は他利、すなわち自分より人の幸福を優先するという精神です。そのサムライ・スピリットが浸透し、自由闊達な校風の中で、サントリイ、野村財閥、塩野義製薬、ユニチャームの創始者をはじめとする、まさに時代を変える実業家を多く輩出してきました。また、人文学系では、芥川賞作家 開高健(たけし)氏、自然科学系では 2 人のノーベル賞学者 南部陽一郎先生と山中伸弥先生を輩出しています。140 周年の記念イベントでは、医学研究科の修了生である山中伸弥先生にご講演をいただくことになっています。楽しみにしておいてください。

ところで、現在の激動の社会において、諸君に何が求められているのでしょうか？企業は学生を採用するときに、どの大学を出たかではなく、その大学で何を学んだか、何ができるようになって、何がしたいのかという志を重要視しています。学生と企業人を対象に経済産業省が行った調査では、興味深い結果が示されています。企業側が「学生に求める能力要素」と学生が「企業から求められていると考えている能力要素」ならびにその水準には、大きなギャップが存在することがわかったのです。

すなわち、企業側は学生に対し、「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」「一般常識」といった内面的な基本能力、人間力と言い換えることができる能力、の不足を感じているのに対して学生は、「語学力」や「簿記」といった技術・スキル系の能力要素が自らに不足していると考えている。企業は、社会人になるまでに、技術やスキルよりは内面的な基本能力を磨いて欲しいと考えているようです。私たちは、この人間力を養成していただくため、教育にアクティブラーニングを積極的に取り入れて来ました。

とくにコミュニケーション力は、ユーモアと頓智が基本になると思います。これは、大阪で学び生活してきた、あるいはこれから学び生活する人の特技になるはずなので大いに活用してください。いずれにせよ、社会は、このような人間力でグローバルリーダーシップを発揮してくれる人材を求めているのです。

求められるグローバル人材とは、先に述べた調査でも分かるように、語学力に優れた人を求めているわけではありません。英語はあくまでもツール、道具です。そのツールを使って伝えられる中身が大事です。中身で言うと、五代友厚公の「他利」の精神、また、スポーツマン精神がそれに当たると思います。その精神を学生生活で磨いてください。

それを磨く手段として、私は課外活動が大事だと考えます。クラブ活動やサークルでは、一つの小さな社会が形成され、企業や社会が求めている「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」「一般常識」といった人間力を磨くことができますからです。日本の文化として、スポーツにしる芸術にしる「道」が付くものが多いと思います。例えば、柔道、剣道、弓道それから芸術におきましても、茶道、華道などがそうです。そういう「道」が意味するところは、スポーツ・芸術において、単に技術を磨くことが神髄ではなく、心が伴っていることが、要するに技術を用いるときに備えておくべき精神を重んじた言葉ですよね。そういうことがグローバルに繋がる、世界に通用する人材形成に繋がっていくのです。イチダイの文武両道のポリシーがそこにあります。

ところで、学生にとっては初年度がスタートを切る非常に大事な年となります。ですから、1年目は特に大事にして頂きたいと思います。残念なことに、調査によると日本の大学生は世界で一番勉強しない部類に入るという結果になっています。何故こうなっているのかと考えてみると、多くは大学に入学することが目的になっていて、大学に入学して何がしたいかという目的が見つけられずに、勉強に力が入らないということではないかなと思います。まず、大学で何のために学ぶか、その目的をできるだけ早く見つけてください。

では、人として、どんな目的を持つべきか。五代友厚公と同じ時代、札幌農学校の初代校長であったウィリアム・スミス・クラーク博士が、学校を去るときに在校生に残した有名な言葉があります。「Boys, be ambitious」。その後が続く言葉が重要なのですがあまり知られていません。実は「Not for money」と続くのです。すなわち、「少年よ、大志を抱け。しかしお金のためでも、利己心のためでも、名声を得るためでもない。人間としてあるべき、あるいは行うべき全てのことに大志を抱け」と言っているのです。

これは、国連で現在 2030 年までを達成目標に掲げている SDGs, Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)が、クラーク博士の言うところの「人間として行うべきこと」に当たると思います。それは「世界を変えるための 17 項目の目標」からなり、「平和と公正をすべての人に」という理念に基づいています。この中から、何

か一つのことを目標に定めてみてはどうでしょうか？

4 年前に私が掲げた本学のスローガンは「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」です。しばらくの我慢の後、笑顔あふれるキャンパスで会えることを楽しみにしています。

改めまして、本日はご入学、誠におめでとうございます。